

「白鳥通信」〈第13号〉平成28年11月10日(木)

身の回りの言葉

朝起きて、皆さんは食前か食後に歯磨きをします。その歯磨きはチューブ状の練り歯磨きが少なくないと思います。この練り歯磨きを「歯磨き粉」と言う人も少なくありません。筆者の幼少時代の頃は、ガラス瓶に入った「歯磨き粉」を使用していました。この「歯磨き粉」は江戸時代からの呼び名だそうです。皆さんの中には、朝晩電車やバスを利用していてもいると思います。座れない時、何につかまりますか。多くの人は「つり革」につかまります。今度つかまった時、よく見てください。「革」ではありません。

学校に到着して、靴を入れます。下駄を履いてくる人はいないのに、「下駄箱」の呼び名も残っています。皆さんは鉛筆やボールペン等の入れ物を何と呼んでいますか。「ペンシルケース」という人、「筆箱」という人、鉛筆等を「筆記用具」という人もいます。教室に入って見ると、前にも後ろにも黒板があります。何気なく使って疑問を持たない「黒板」も眼をこらして見てください。校内に「黒板」は見かけません。全て「緑板」です。私たちの生活と一体化した密接な言葉は、物の形状、内容が変化しても簡単に変えられないのです。身の回りの言葉にも眼を向けると必ず発見があります。

◎11月の言葉

練習はうそをつかない。

○四字熟語シリーズ2

どう読む、意味は？

① 乾坤一擲 ② 捲土重来

③ 九死一生

(解答)

① けんこんいつてき 乾坤は天地、擲はさいころバクチをすること。さいころを投げてその目に運命を任せること。のるかそるかの大勝負をすること。

例文↓乾坤一擲の大勝負を賭けて新商品を発売する。

② けんどちょうらい 一度戦いに敗れた者が、勢いを盛り返して土煙を上げて攻めてくること。例文↓次の戦いは捲土重来で頑張る。

③ きゆうしゅう 助かる見込みのなかったが生き延びることができた。

例文↓九死に一生を得る。